

「ヘロデ王の急死」

2016年06月02日

使徒言行録 12 章 20 節～24 節。ヘロデ王は、ティルスとシドンの住民にひどく腹を立てていた。そこで、住民たちはそろって王を訪ね、その侍従ブラストに取り入って和解を願い出た。彼らの地方が、王の国から食糧を得ていたからである。定められた日に、ヘロデが王の服を着けて座に着き、演説をすると、集まった人々は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。するとたちまち、主の天使がヘロデを撃ち倒した。神に栄光を帰さなかったからである。ヘロデは、蛆に食い荒らされて息絶えた。

神の言葉はますます栄え、広がって行った。バルナバとサウロはエルサレムのための任務を果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰って行った。

ヘロデ・アグリッパ一世はティルスとシドンの住民に対して激怒していた。ティルスとシドンは地中海沿岸の海洋交易民族であったフェニキア人の二大都市である。ヘロデ王の怒りの理由はおそらく両国間の経済問題であろう。フェニキア人は穀倉地帯であったパレスチナから食料を輸入していた。ヘロデ王はフェニキア人から何か気に入らないことをされて怒り、フェニキアとの通商貿易を封鎖したようだ。窮したフェニキアの商人たちは、王の侍従ブラストに取り入り、和解を願った。その結果、調停の式典が持たれることになった。「定められた日」とはローマ皇帝の安寧を祈願する祭が執り行われる日だったそうである。

ヘロデ王は銀糸で刺繍した王衣をまとっていた。その王衣が朝日に映えて輝いていた。王座に着いて演説をすると、集まっていた人々は「神の声だ。人間の声ではない」と、王を賛美した。人間を神と崇める賛美を、王は快く受け入れた。するとたちまち、主の天使がヘロデを撃ち倒した。使徒言行録は「ヘロデは、蛆に食い荒らされて息絶えた」と書いている。神に敵対する者には生きたまま虫が咬みつくとされ、教会を迫害した者の典型的な死の姿である。実際、どのような病気であったかは分からないが、盲腸炎が化膿し、ひどい痛みの中で死亡したのではないかとされている。

この記述は、「神の声だ。人間の声ではない」というイスラエル人が受けてはならない賛美を喜んだヘロデ王に対する神の裁きと捉えている。使徒言行録 10 章 24 節に、ペトロがローマの百人隊長コルネリウスを訪ねた時のことを下記のように書いている。「一行はカイサリアに到着した。コルネリウスは親類や親しい友人を呼び集めて待っていた。ペトロが来ると、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拜んだ。ペトロは彼を起こして言った。『お立ちください。わたしもただの人間です。』」人は地に住む者で、人からひれ伏し拜まれるような存在ではない。教会は神のみを神とする一途な信仰に立っていた。この信仰から外れたヘロデ王は蛆に咬まれ、急逝したと伝えている。

ヘロデ王の急逝によって、神への畏れが人々の間に増し、教会が宣教する神の言葉はますます受け入れられ、広がって行った。迫害を受けている最中、教会は確かな前進をしていったのである。

バルナバとサウロはエルサレム教会の窮乏した信者たちを援助する支援物資を届ける任務を果たし、アンテオキア教会に帰って行った、その時、最後の晩餐をした二階の広間の持ち主マリアの息子「マルコと呼ばれるヨハネ」を連れて帰って行った。二人は「マルコ・ヨハネ」に期待し、教育しようとしたのではないか。